学校番号	T3017

令和８年度　学校設定教科

教科	（学）チャレンジ	科目	（学）異文化理解Ｂ	単位数	１単位	年次	２年次（４年制）
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

現在、多くの外国籍の方が日本に居住しており、グローバル化が急激に進んでいます。より多様な思想や文化を学び、それらを自らの生き方に反映させていくことが必要となります。教室での座学だけでなく、実際に異なる文化を持つコミュニティ（在日外国人コミュニティ、海外の現地社会など）に飛び込み、理論だけでなく実践として異文化を理解することを目的とします。自分の価値観が「世界の中の多様な価値観の一つ」であることを知り、グローバル社会で求められる柔軟性、判断力、そして多様な人々との共生意識を養いましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
異文化コミュニケーションにおける言語・非言語の特徴や、異なる文化圏の社会背景について具体的な知識を習得し、自他文化の差異を具体例を挙げて説明できる。
【思考力、判断力、表現力等】
フィールドワークで得た知見をもとに、異文化環境で生じる誤解や摩擦の原因を客観的に分析し、より円滑なコミュニケーションのための改善策を論理的に表現できる。
【学びに向かう力、人間性等】
他者の異なる価値観を尊重し、対話を通じて互いの理解を深めようとする協調的な態度を持ち、自らの視野が広がることに対して喜びを感じて取り組もうとする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	海外研修やフィールドワークの体験内容、及びそれに付随する異文化に関する知識を正確に整理し、異文化理解の成果をレポートや成果物として明確に表現できている。	異文化体験から得られた自身の固定観念の打破や、多様性に対する洞察を論理的に考察し、説得力のある表現で自らの進路や社会との繋がりを見出そうとしている。	海外研修やフィールドワークにおいて、積極性をもって他者と交流し、文化的背景や習慣を学ぶ意欲が強くみられる。また、異文化特有の課題に対して粘り強く対応しようとする姿勢がみられる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
集中講座	事前学習	・訪問先の文化(歴史、習慣、社会構造)に関する基礎知識のインプット(ミニレクチャー) ・異文化コミュニケーションの基本スキル(非言語、傾聴)の学習とロールプレイング。 ・パスポート取得について	a: 訪問先の社会構造や独自の習慣について、背景を含めて具体的に説明できている。 b: ロールプレイングを通じ、異文化間での誤解が生じやすい場面を特定し、その対応策を表現できている。 c: 訪問先への関心を持ち、現地の言葉やマナーを自ら進んで習得しようと努めている。	学習ワーク等	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察
	海外研修・フィールドワーク	・コミュニティの歴史や生活、文化施設を見学し、コミュニティの構成員と簡単な交流を試みる。 ・異文化が日本社会にもたらす影響と共生について、体験を通して考える。	a: 交流を通じて得た現地の生の声や生活の工夫について、詳細に記録し報告できている。 b: フィールドワークで直面した「驚き」や「違和感」を、文化背景の違いと結びつけて分析できている。 c: 言葉の壁を恐れず、非言語手段も活用しながら積極的に現地の方と意思疎通を図っている。	学習ワーク等	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察
	事後学習・発表	・研修やフィールドワークの体験を振り返り、個人レポートを作成する。 ・異文化交流で学んだ「多様性の受容」と「グローバルな視点」を、将来の進路にどのように活かすかを明確にする。 ・成果発表会(プレゼンテーション)を実施し、全生徒と共有する	a: レポートにおいて、体験した文化と日本文化を比較し、共通点と相違点を整理して記述できている。 b: 発表において、異文化理解が自身の柔軟な思考にどう寄与したか、具体的な変化を表現できている。 c: 他者の発表を真摯に聴き、多様な体験の共有を通じてさらに学びを深めようとしている。	レポート等の自己表現課題	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度